

# 歴史の小径 散策ルート

北  
4

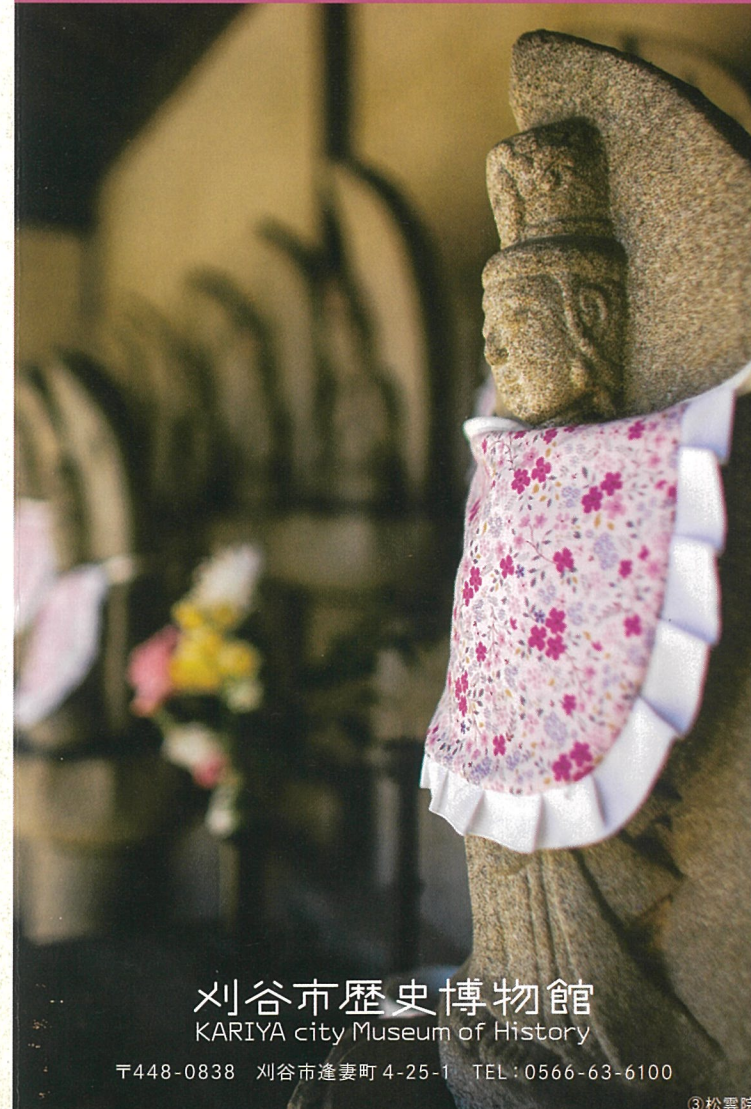


距離 約5.5km  
徒歩 約4時間コース

# 刈谷市 歴史の小径

れきしのこみち

一ツ木・築地・恩田編



刈谷市歴史博物館  
KARIYA city Museum of History

〒448-0838 刈谷市逢妻町 4-25-1 TEL: 0566-63-6100

## 1 総合運動公園 【そうごううんどうこうえん】

平成6年(1994)10月に開設。公園の面積は18.4ha。ウェーブスタジアム刈谷(平成5年10月開設)、ウィングアリーナ刈谷、グリーングラウンド刈谷(ともに平成19年開設)、遊び広場などで構成される。

## 2 芋川遺跡 【いもかわいせき】

芋川遺跡は、逢妻川左岸の碧海台地上にあり、昭和44年(1969)・58年および61年の3度にわたり発掘調査が実施された。縄文時代中期～晩期、古墳時代、奈良時代にわたって集落が営まれ、各時代の竪穴住居跡や土器などの遺物が出土している。平成8年(1996)に愛知県指定史跡となった。



芋川遺跡出土品



芋川遺跡をもとにしたジオラマ

## 3 松雲院 【しょううんいん】

昔、主君を失った家臣がその菩提を弔うため自宅に薬師如来を安置したのが始まりとされる。貞享4年(1687)三河国幡豆郡貝吹村長圓寺の月舟和尚が親交の深かった板倉重宗の法名より寺号を松雲院とし、代々刈谷藩主が信仰した。「恩田の初連」は松雲院に伝わる伝説である。



松雲院

## 4 恩田の初連 【おんだのはつれん】

三浦氏が刈谷藩主の頃(1712～1746)、松雲院に初連という白狐がいた。藩主の家来にいじめられた初連は、藩主の婚礼を知り、花嫁行列に化けて城内で大騒ぎを起こした。藩主は減封のうえ国替、初連は箱根の山奥に逃げ去ってしまったという。

## 5 誓願寺 【せいがんじ】

創立は不明。元文3年(1738)天台宗から浄土真宗に転宗した。

当寺第6世小林信道(大道)は碧海と号して詩作を好み、後年は刈谷藩校である文礼館教授も務めた。門下生に幕末の志士・佐々木市兵衛がいる。

## 6 舟塚 【ふなづか】

## 7 熊野神社(糟目神社) 【くまのじんじゃ】【かすめじんじゃ】

応神天皇の玄孫である彦主人王が伊邪那岐命、伊邪那美命の2神を祀り、糟目天神と称した。社伝によると、宇多天皇在位の頃(887～897)に、三善清行が舟塚より上陸し熊野三神を祀ったとされる。熊野三社と称し、糟目天神熊野三社権現と親しまれたが、明治維新の際、熊野社と改称した。

舟塚は、彦主人王や三善清行が、この地の松に舟をつないで上陸したとされる場所。石柱には「熊野社御神体上陸之地」と刻まれており、当地の熊野信仰を伝えている。



熊野神社



舟塚

## 8 築地貝塚 【つじかいづか】

築地貝塚は、築地川右岸の台地にあり、半島状の碧海台地上に形成された貝塚である。縄文時代後期の貝塚で、竪穴住居跡や縄文土器、石鏃などの石器とともに、人骨や獣骨、貝などが数多く出土した。

## 9 築地古墳 【つじこふん】

碧海台地の西縁にあたり、標高は7～8m。大正時代終わり頃の耕地整理により、現存はしていない。

耕地整理作業に従事した人の話では、低い盛り土で、前方が狭く後方が広い造りの石室をもっていたとされるため、横穴式石室を持つ小円墳であったといわれる。

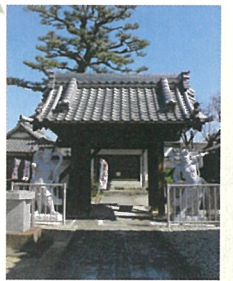
出土遺物として、須恵器、土師器、鉄製品がある。



築地古墳出土品

## 10 東照寺 【とうしょうじ】

応永15年(1408)10月、日叟透玄が庵室を建立し薬師堂とした。天正5年(1577)8月、楞嚴寺7世の古堂周鑑が再興し、この時本尊薬師如来の経文によって寺号を東照寺と改めた。



東照寺

## 11 佐々木市兵衛の碑 【ささきいへえのひ】

佐々木市兵衛は尊王攘夷の志士として活躍した。刈谷藩主・土井利教は市兵衛の忠節に感服し、土分(土族)の待遇を与えている。しかし、明治4年(1871)の「伊勢神宮動座騒動」に関与したことで、国事犯として裁かれて翌5年に40歳で獄中死した。